

第2章 荒尾市の現状

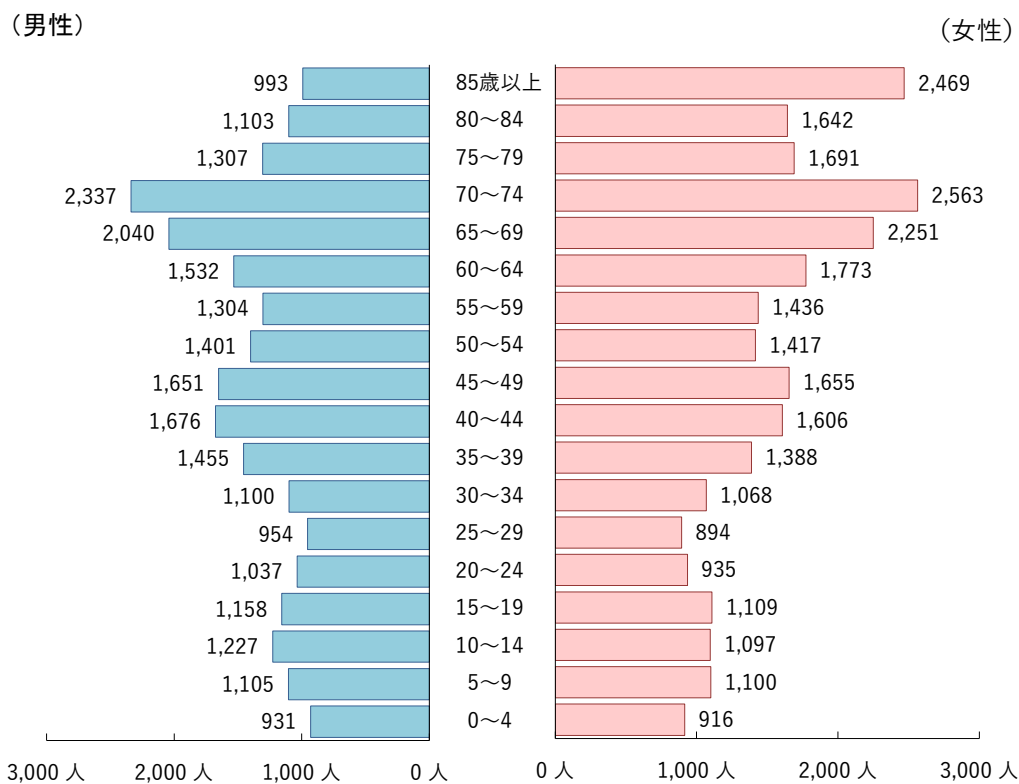
1 人口動態

(1) 人口ピラミッド

本市の総人口は令和3年3月31日時点で51,321人であり、そのうち65歳以上の高齢者が18,396人、高齢化率は35.8%となっています（図表1）。

年齢階層別にみると、男女とも70～74歳の人口が最も多くなっています。また、45歳以上の人口は、いずれの年齢階層でも男性より女性の方が多く、特に85歳以上では女性の人口が男性の約2.5倍となっています。

図表1 人口ピラミッド



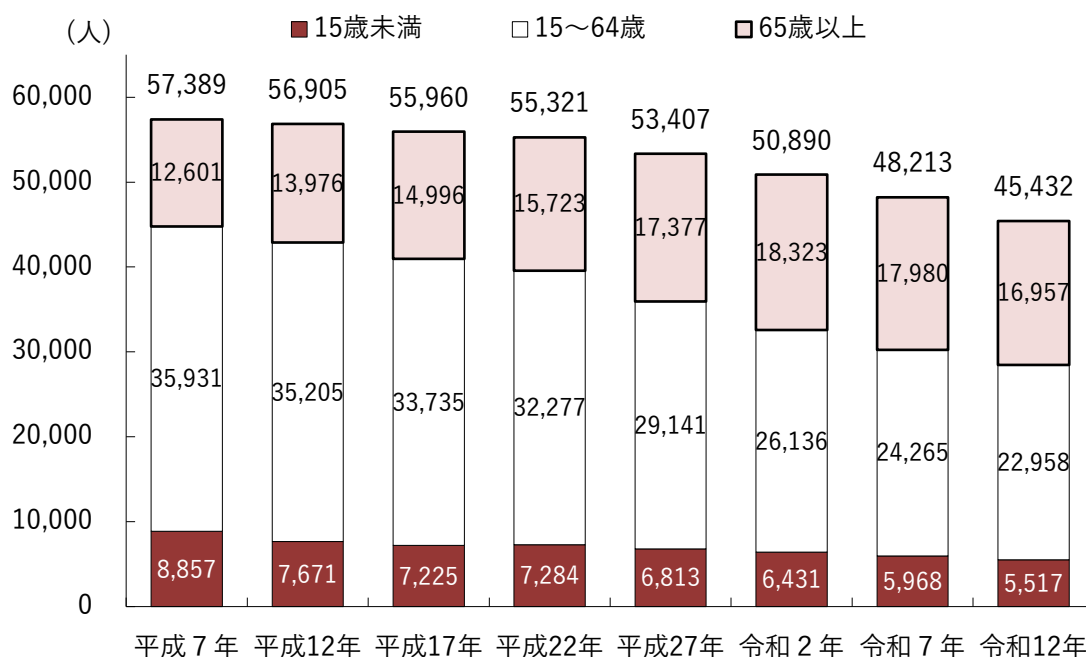
資料：住民基本台帳（令和3年3月末時点）

(2) 人口の推移

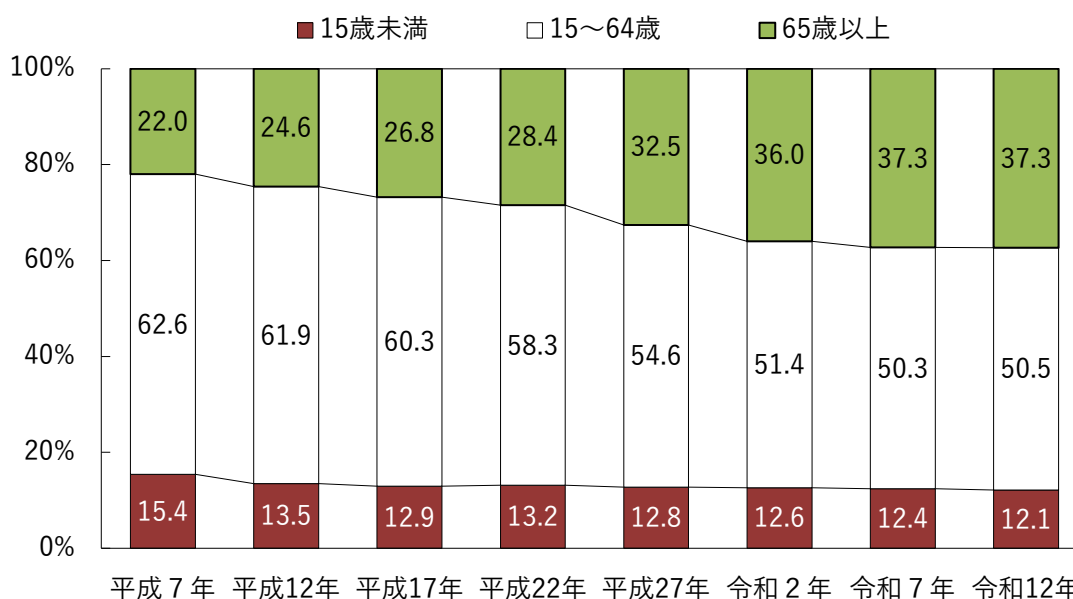
人口の推移をみてみると、総人口は平成7年以降、継続して減少していることが分かります（図表2）。内訳をみると、15歳未満である年少人口は若干の増減はあるものの、おおむね減少傾向で推移しています。また、15歳から64歳までの生産年齢人口は平成7年以降、継続して減少しているのに対し、65歳以上の老年人口は増加が続いています。

年齢3区分別の人口割合をみると、平成7年以降、少子高齢化は継続して進行しており、生産年齢人口が減少していることから、第4次計画期間中も少子高齢化の傾向が続くと予想されます（図表3）。

図表 2 年齢3区分の人口推移



図表 3 年齢3区分の人口割合の推移



資料：平成27年まで【国勢調査（各年10月1日現在）】、令和2年以降【国立社会保障人口問題研究所の「日本の将来人口推計（平成30年度）」による（図表2及び図表3）】

2 アンケート調査からみる荒尾市の現状

(1) アンケート調査について

①...調査の目的

「第3次荒尾市男女共同参画計画」の期間満了に伴い、「第4次荒尾市男女共同参画計画」を策定するため、市民の日頃の生活の様子や考えをたずね、意識や実態の変化を把握し、今後の男女共同参画行政を充実させていくための基礎資料にすることを目的としています。

②...調査の概要

調査対象者	市内に居住する満20歳以上の人の中から無作為に抽出した1,500人
調査方法	郵送による配布・回収、二次元バーコードによる回収
調査期間	令和2年11月27日～令和2年12月20日

③...回収状況

調査対象者数	1,500人
有効回収数（回収数）	587件（590件）
回収率	39.1%

(2) 調査結果の概要

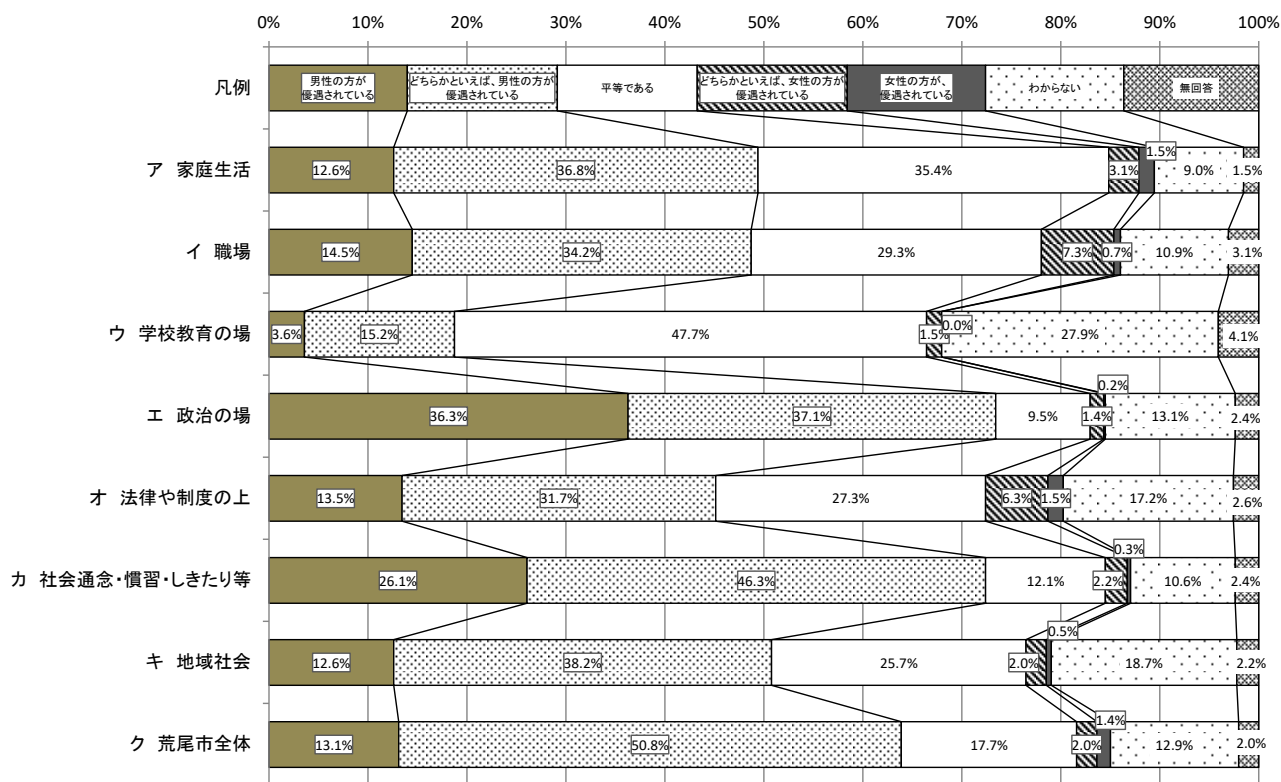
① 男女の地位の平等感について

男女の平等感について、「平等である」と回答した人の割合は「政治の場」「社会通念・慣習・しきたり等」について特に低い傾向にあり、「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」と回答した人の割合も、他の項目と比較して高い傾向にあることが分かります（図表 4）。

男女別でみると、「平等である」と回答した人の割合は、男性よりも女性で低い傾向にあり、「全体」では 15.3 ポイントの差があります（図表 5）。

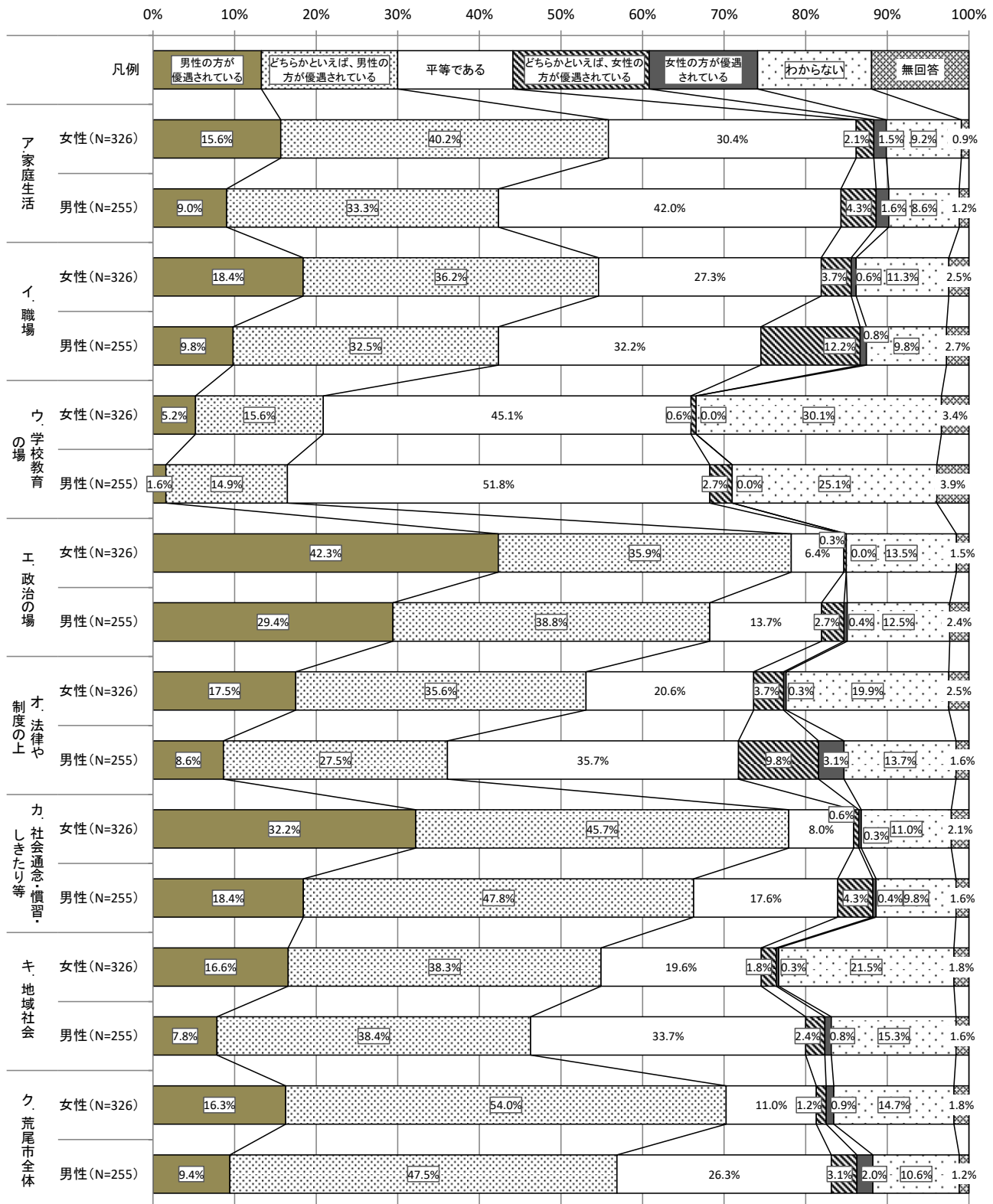
平成 27 年度に実施した調査と比較すると、「政治の場」「社会通念・慣習・しきたり等」について、いずれも平等または男性の方が優遇されていると感じる人の割合に大きな変化はありませんが、男性が優位であると感じている人は、依然として全体の 7 割を超えており、多くの人が不平等感を抱えていることが分かります（図表 6、図表 7）。

図表 4 男女の平等感について

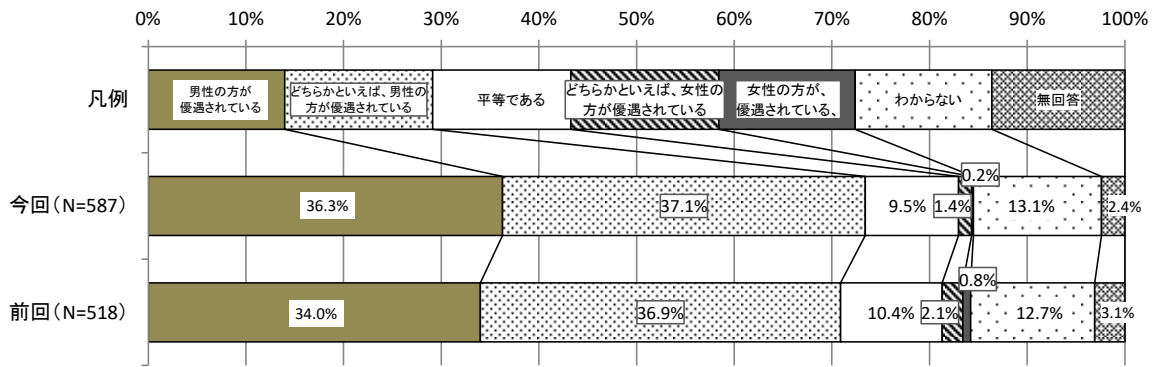


(N=587)

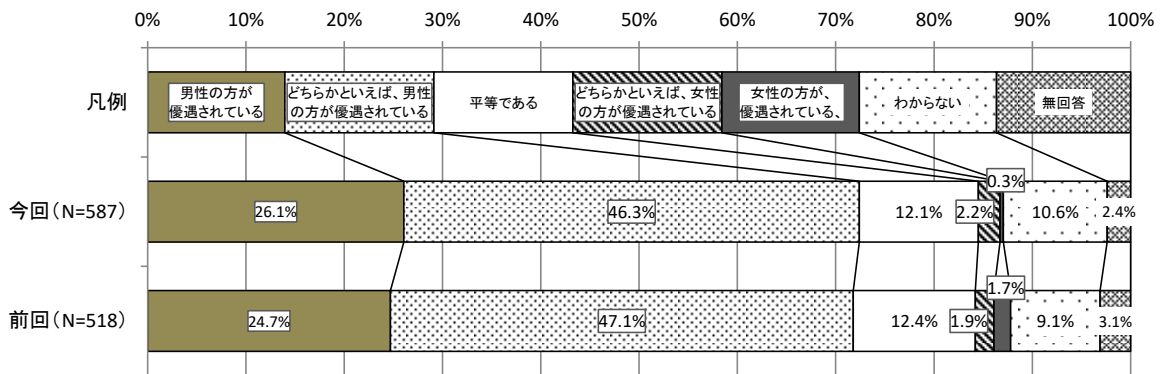
図表 5 男女の平等感について（男女別）



図表 6 政治の場での男女の平等感について



図表 7 社会通念・慣習・しきたり等での男女の平等感について

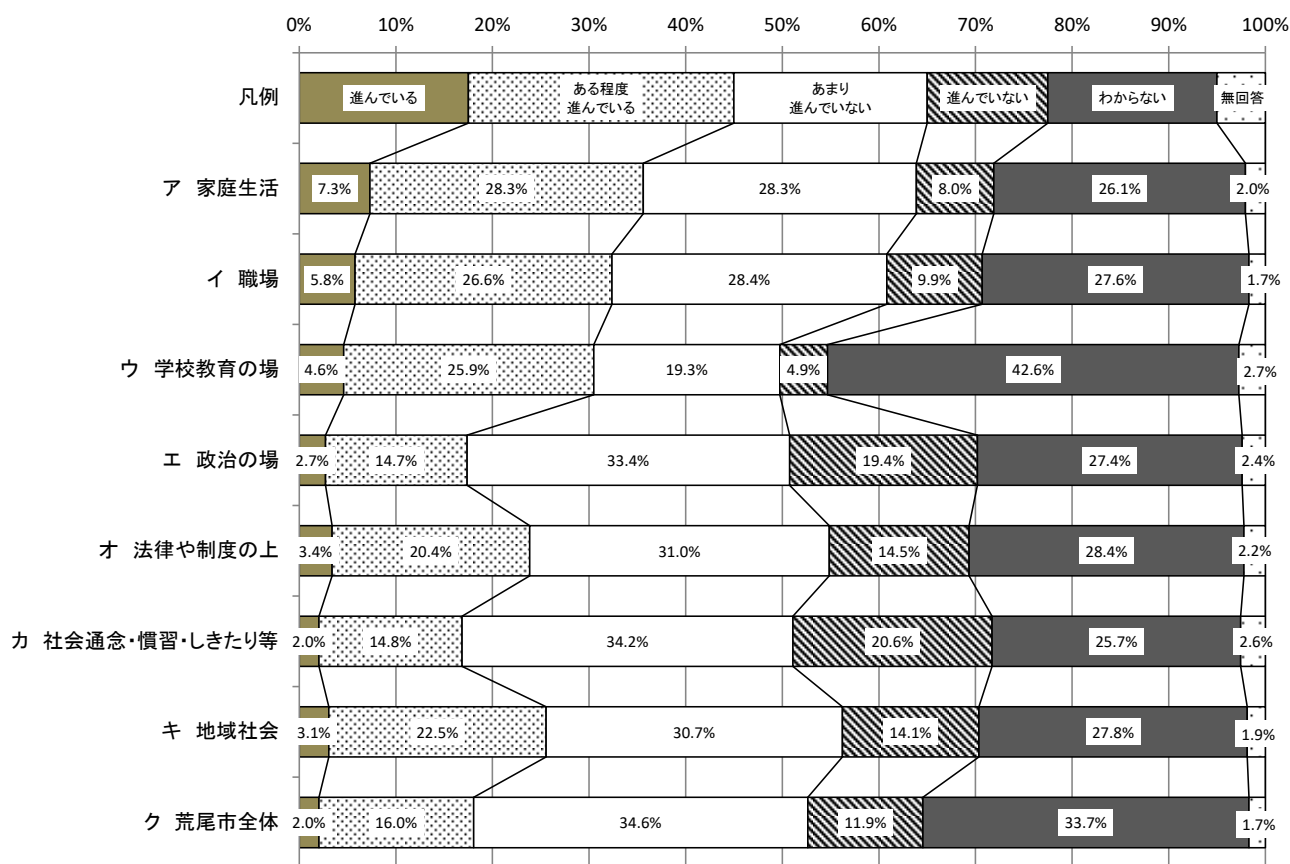


② 女性の社会的地位の変化

平成 27 年からの 5 年間で、各分野の女性活躍がどの程度進んだと感じるかを尋ねたところ、「進んでいる」「ある程度進んでいる」と回答した肯定派の割合は、「家庭生活」「職場」「学校教育の場」で 3 割以上となっています。一方、「政治の場」「法律や制度の上」「社会通念・慣習・しきたり等」「地域社会」「全体」では、前述の 3 つの項目と比較して肯定派の割合が相対的に低く、「あまり進んでいない」「進んでいない」と回答した否定派の割合が高くなっています（図表 8）。

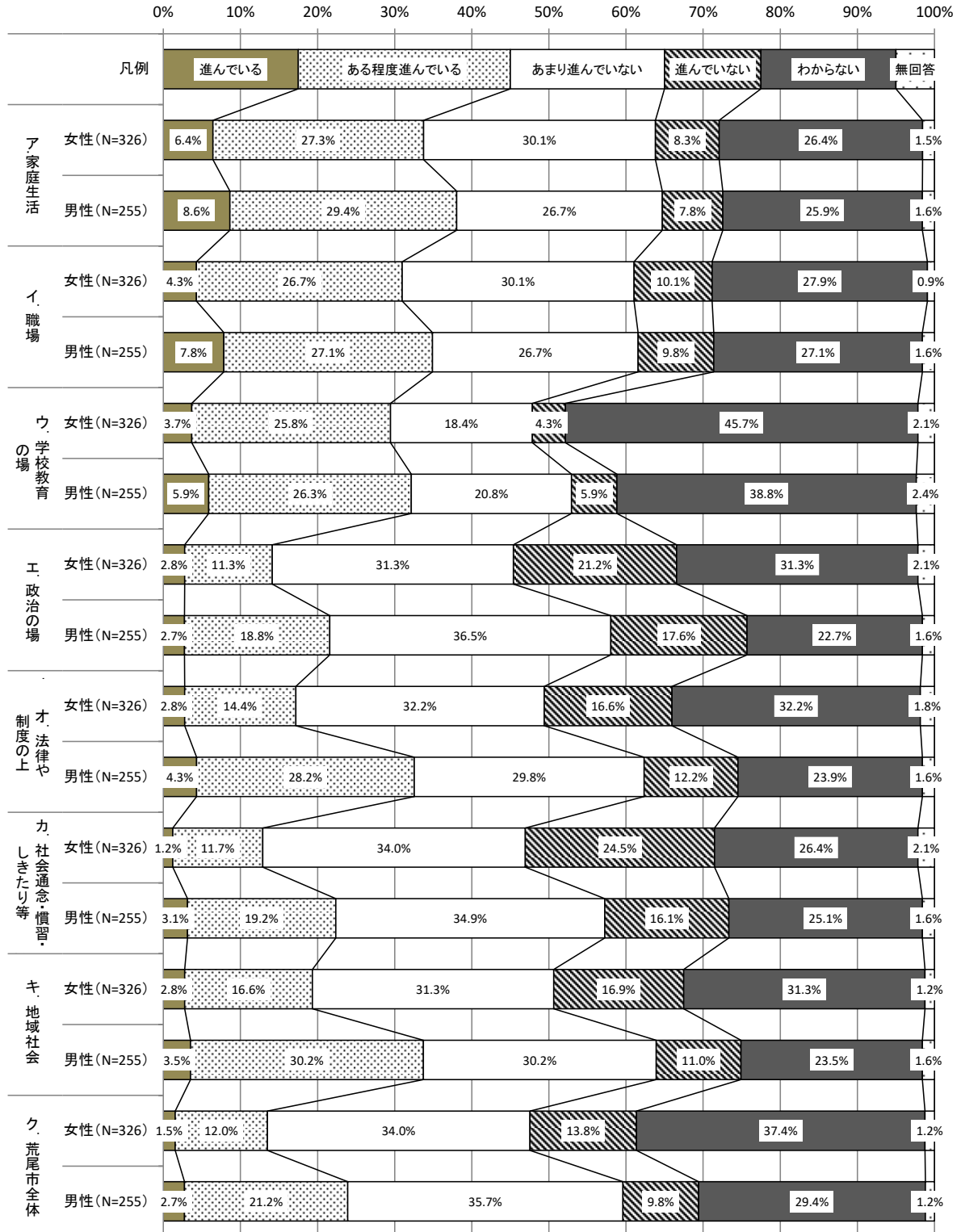
各分野について男女別で見ると、否定派の多かった分野については、性別により肯定派の割合に大きな差がみられることから、男女間で認識に差があることが考えられます（図表 9）。

図表 8 女性の社会的地位の変化について



(N=587)

図表 9 女性の社会的地位の変化について（男女別）

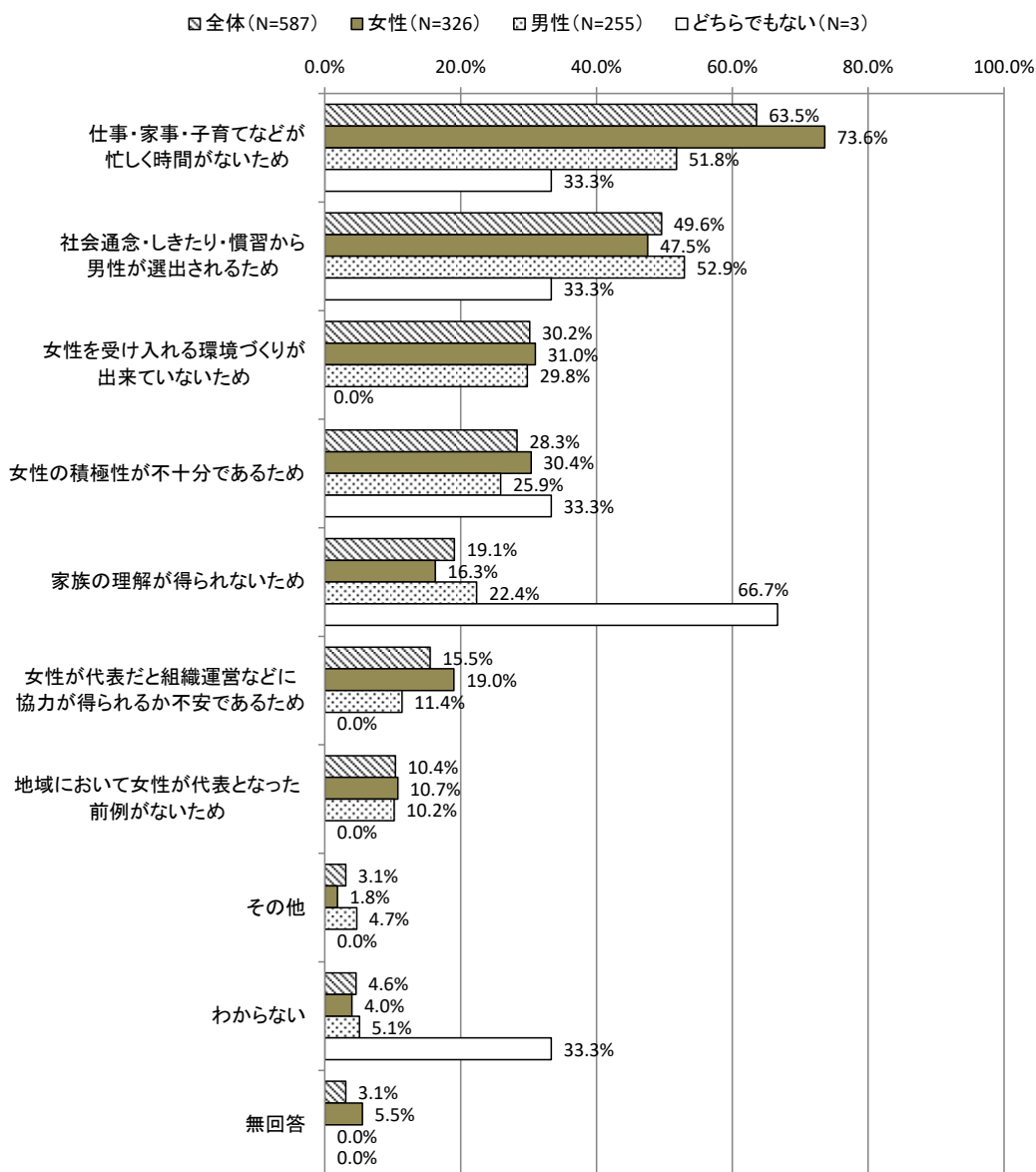


③ 地域等の団体活動について

自治体やPTAの会長など、地域等の団体の代表に女性が少ない原因について尋ねたところ、「仕事・家事・子育てなどが忙しく時間がないため」と回答した人の割合が最も高く、63.5%となっています。次いで、「社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため」(49.6%)、「女性を受け入れる環境づくりが出来ていないため」(30.2%)と続きます(図表 10)。

一方、「女性が代表だと組織運営などに協力が得られるか不安であるため」や、「地域において女性が代表となった前例がないため」と回答した人も1割程度存在しており、地域社会におけるしきたりや慣習は根強く、地域活動においても、女性の参画があまり進んでいません。

図表 10 地域等の活動団体の代表に女性が少ない原因



④ 方針決定の場に女性の参画が少ない理由

政治や行政、職場などにおいて、企画立案や方針決定の場に女性の参画がまだまだ少ない理由について尋ねたところ、「男性優位の組織運営がなされているため」と回答した人の割合が56.7%と最も高く、次いで、「家庭・職場・地域で、性別による役割分担や性差別の意識が強いため」(39.0%)と続きます(図表 11)。

一方で、性別で見ると、女性で「家庭の支援、協力が得られないため」(32.5%)、「女性の積極性が不十分であるため」(30.1%)、「女性の能力向上を図るための機会が不十分であるため」(27.3%)と回答した人の割合が男性と比較して高くなっています。

図表 11 方針決定の場に女性の参画が少ない理由

